

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100552		
法人名	社会福祉法人 白富会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園		
所在地	熊本県熊本市東区長嶺東3丁目3-70番地		
自己評価作成日	令和7年1月1日	評価結果市町村受理日	令和7年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和7年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街の中に位置しており、周囲も気軽に散歩できる環境にあります。施設の近くには小学校もあり、児童の登下校時や運動場での活動時に子供たちの声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ご家族に対しても入居者お一人々のホームでの生活をLINEの活用やブログにてお伝えしています。職員の元気も大切にしながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来つように努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。また、近くに複数の病院があり安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時からの理念「スマイルライフ」を今日まで大切に育て、入居者主体の生活が継続されている。宅地化が進む東区にあって、学校や公園、小売店が徒歩圏内にあり、それらを入居者の日常に取り入れながら運営している。前年度より運営推進会議の対面開催が出来ており、今回は担当職員による入居者個別の暮らしの状況を項目ごとに評価して、会議や外部評価のツールとして活用している。職員体制が難しい中にも職員が生き生きと業務にあたる姿は家族からも評価されており、今後の体制づくりが期待される。管理者はケアマネジャーとともに、ナイスライの受け入れや地域のサロンにボランティアとして出向き、感染症の情報を発信したりレクレーションを通じて人々と交流を図っている。作成した介護計画書には入居者や家族の意向が反映され、担当者会議ではわかりやすく説明しながら、入居者自身が自筆でサインされる事もあるなど出来る力を発揮してもらおうよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者と一緒に笑顔の絶えない施設づくりを目指す「スマイルライフ」を理念とし、サービスの実施の際には念頭に置いて行動している。	開設時からの理念「スマイルライフ」は入居者を中心として家族や職員、地域などホームに関わる全ての人々の笑顔を引き出し、それぞれの立場を尊重しながら共に支え合うホーム運営を目指している。本年度は地域交流への取組や運営推進会議の対面開催により、コロナ以前からの活動が戻ってきており、入居者が地域の人々と交流する機会も少しずつ増えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議も対面での会議を行っております。また、ナイスライの受け入れやボランティア活動での地域の関わりなどを行っております。	昨年中学生のナイスライ(職場体験)を受入れ、3日間のカリキュラムを準備して建物内に併設する小規模多機能事業所との仕組みの違いや、福祉用具の体験、入居者とのコミュニケーションを通じて福祉への関心を持ってもらうように企画している。地域のふれあいサロンには職員がボランティアとして出向き、感染症に関する話やレクレーションを通じて人々と交流を図り、ホームの取組を発信している。この春には入居者との花見が近隣の公園で予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や施設に来られた方に対し、認知症ケアでの質問を受けその都度説明しています。また、施設の入所条件やどのような生活をされているのか説明しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も対面での会議を行っております。サービスの報告や意見など可能な限り活かしていこうと考えております。	会議は小規模多機能事業所と合同で行い、対面開催が出来ている。メンバーにはささえりあや、地域、家族の代表者、法人代表者や職員が参加している。ホームの現状や事故、ヒヤリハット、研修内容などについて報告している。また防災訓練の報告の際には家族への参加協力を発信している。当日会議に参加されなかった家族へは議事録や資料の送付にて情報を共有している。	管理者は次回の会議では身体拘束や虐待防止への取組及び、防災についてBCPをもとに再度話を計画している。訓練については推進会議を利用して参加者とともに実際に体験することで様々な評価が得られるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	人員配置についての相談から、サービス実施における問い合わせなど、必要な際には担当者とは必ず連絡を取り、協力関係を構築している。	運営推進会議にはささえりあからの参加がありホームの現状を発信し、ささえりあからの意見や情報をホーム運営に反映させている。行政へは事故報告についてメールで報告し、本年度は運営指導も受けている。認定調査には職員が立ち会い、入居者のありのままの状態を見てもらうこととしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員会議の際に勉強会のテーマとする事が多く、広く職員間で認識を共有している。身体拘束委員会についても定期的に開催し、実践している。	年間研修計画の中に身体拘束適正化委員会を年4回設置し、毎月の会議の中でも必要に応じて話し合いの時間を設けている。研修を通じて職員の認識を深め、日々のケアにおいて一人ひとりが意識を持って入居者を支えるようにしている。身体拘束の指針を目の付く所に掲示してホームの姿勢を啓発している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において話し合う場を持ち、虐待の意味や提供されているサービスが適切かどうか考え、意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護について勉強会を開催するなどし、各職員の知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書、運営規定を読み合わせ、同意して頂いた後に記名と捺印を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、記入して頂いた内容はスタッフに伝え、改善出来るようにしていると共に、直接希望を言われた場合は、対応できることは即対応する事になっています。	入居者の要望は普段の関わりの中から聞き取り、食べたいものなどを言葉にされたり、他者との関係からテーブル席の配置換えの要望が出されている。家族には運営推進会議や面会時などに直接意見や要望を収集し、出された内容について職員で共有し対応している。本年度担当職員による入居者個別の暮らしの状況を項目ごとに評価する等、運営推進会議や外部評価に向けたツールとして活用しており、職員の振り返りにもなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議にて、検討会や意見の収集を行っています。また、各職員が自由に意見を書き込めるなんでもノートを活用し、日々の意見を取り入れる様にしています。	毎月の職員会議はケア会議を兼ねており、入居者の現状を共有して支援内容を検討している。また職員外見を出しやすい雰囲気作りに努め、“何でもノート”を活用したり、普段から職員の意見を聞き取りながら要望を把握するようにしている。現在の勤務体制(日勤と夜勤の2体制)上、希望休や有休取得がスムーズであるとは言い難いが、入居者支援に最善を尽くしている。	代表者が運営推進会議に参加するなどホームの現状は共有されているが、昨今の人手不足は介護業界に大きな打撃となっており、職員体制については代表者のリーダーシップのもとホーム一丸となって改善が図られることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間月単位の変形労働制に変えることで、年間の休日が2日増えた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会を行うと共に、安全対策委員会にて、職員から出た日々のヒアリハットの検証を行い、同時にその職員に書面にてアドバイスを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外の研修への参加を行い、他施設職員との交流から、色んな意見を取り入れ、施設運営に活用出来るように対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活背景を知ると共に、傾聴を受容し本人にとって必要不可欠なことを見極め、安心できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や必要に応じ、日常生活の様子、健康状態の報告を行い、同時にご家族等からの要望を直接伺い、又は、意見箱設置し、入居者様が安心できる環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・主治医と連携を図り、必要としている支援を見極め、本人らしく生活出来るよう支援している。必要に応じ、訪問マッサージが受けられるよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を基本に考え、ご本人が出来る部分等の見極めを行いながら、積極的に自立に向けた対応に努めています。また、出来ない部分へのケアにも一緒に行いながら対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対し、報告・連絡・相談等を行いながら、ご家族に協力できる部分には力になって頂き、利用者様をご家族と共に支えることが出来ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、近隣の知人・友人等の自由な面会又は電話での対応を行い、関係性が継続できるよう支援を行っている。また、各客室には、家族の写真や日々日常で使われていた物を使用されています。	入居者は家族や親戚などの面会を楽しみにされており、来所時にはゆっくり過ごしてもらうように投げかけ、時にはホーム周辺を散歩しひと時を過ごされている。居室の椅子に腰をおろし、縫物をされたり、嗜好品の購入に職員と買い物に出る等馴染みの生活が出来ている。飲み物等についても好みの物を準備し、ホッとする時間を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	視覚障害のある方や認知症により意思疎通が困難な方もいらっしゃるので、職員が仲介となり、行事やレク等での交流が図れる場を設けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先が施設や病院の場合、情報提供書を作成し、退所後もご家族等から相談があれば対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から希望や意向は常々尋ね、意向に添えるよう理念に基づきながら検討・対応しています。	入居者の意向は日々の生活の中で引き出し、ホームでの暮らし方や外出への要望などを尋ねている。家族には面会時やプラン作成時に電話で入居者の暮らし方について代弁してもらったり、ホームへの要望なども合わせて聞き取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活背景を知ると共に、ご本人らしい生活が出来るよう対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、カンファレンス、記録を通し、情報の共有をしていくと共に、その人に合った対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況を把握し、必要なケアを立案しています。又、介護計画のモニタリングは、毎月実施しており、ご家族に相談が必要な内容がある場合は適宜相談し対応をお願いしています。	ケアマネジャーは入居者、家族の意向を優先し、職員からあがった意見を反映しながらプランを立案している。担当者会議には入居者自身にプランを説明し、ホームでの生活や体調などを尋ねながら、してもらいたい事などを具体的に引き出し、家族に了承を得て入居者自身がサインされることもあるなど、できる力を発揮してもらうようにしている。担当職員を中心に半年ごとに見直し、現状に即した内容としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様個別に日々の記録を行うと共に、簡素化した文章ではなく、ポイントが明確に分かりやすいPOS方式を取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご家族の急な申し出や受診対応等、柔軟に行うようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様と一緒に食材の買い物に出掛けたり、花壇の整備を一緒に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご利用者様とで病院受診される際には、必要に応じ、前もって情報提供書の作成を行い、直接電話での報告や受診時に持参して頂いています。	現在3か所の医療機関による月2回の訪問診療や、希望する機関に家族による対応の他、状況によっては職員による受診外出が行われている。結果は面会時やラインを活用し家族へ報告し質問や相談に応じている。歯科は希望者のみ訪問による治療や口腔ケアが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、情報交換をしており看護職員が休みの時も必要な時は電話連絡にて指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を行い、その際に担当Nsとの情報交換を行っています。退院の際には、入院先との情報交換や退院後の調整を行っています。また入院時は、その都度サマリーを作成し提出しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期への支援を見据え、ご家族と相談を行い、関係機関との調整や往診への協力を行っています。	入居時に指針をもとにホームの方針を説明しその時点での家族の思いや意向を聞き取り、重度化された場合、改めて家族へ聞き取る機会を持っている。入居時にホームでの看取りを希望されてい家族が、最終的にはまだまだ生きていて欲しいと望まれ、医療機関へ転院され最期を迎えられた方もおられるようである。管理者やケアマネジャーは家族の思いは変化するものであり、必要に応じて意向を聞きながら、今後もホームに出来る支援に努めていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の事業計画に毎月の勉強会を決め、行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っています。又、防災委員会を設け、年間の訓練を実施しています。	年2回火災を想定した訓練を実施している。1回目は日中を想定し、2回目は夜間を想定して行われている。訓練には家族の参加を呼び掛けているが、参加は得られなかったようである。防災委員会では訓練の計画をはじめ、備蓄の確保も行っており、防災セットや食料など3日分を十分に備えている。BCPIについては運営推進会の中でも報告している。	ホームは2階にある事から今後も避難誘導については消防署や運営推進会議などの中で意見を受けながら有事に備えていかれる事を期待したい。また家族の安全対策への気付きを活かせる様、訓練への参加を引き続き呼びかけていかれる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昔されていたお仕事や、ご家族の関係など、その方にあった言葉かけや安心できる声掛けを心がけています。	一人ひとりの意向を確認し、その方らしい時間を過ごせる様心掛けている。呼称は苗字にさん付けの他、希望や反応、同姓など下の名前でも対応する場合は、家族の了承を得ている。入浴支援など同性介助に努めているが、男性職員の介助が安心される方もおられるようである。食事のエプロンも尊厳や拘束に繋がることもあるとし、できる限りタオルで対応したり、使用する際は首の負担が無いよう配慮している。写真掲載など個人情報の使用については、家族の了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向を確認し対応することに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はありますが、その時の気分や体調、ペースを尊重しながら支援を行っています。(特に食事や入浴)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日一緒に着る服をコーディネートしています。又、外出の際の鏡台を出口付近に設置し活用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け等を手伝って頂いたり、片付けの時には食器の拭き取りを一緒にやっています。	現在食事はご飯のみホームで炊き、他は冷蔵で届く外注食を利用し、個々の嚥下力に応じた食形態で提供している。検食を行っており気づいたことは業者に伝えている。入居者が調理に関わる機会を持たれていないが、食器拭きなど出来る事に取り組んでもらっている。食後は個々に応じた口腔ケアを職員間で共有し、清潔に保てるようにしている。	食事は外注されており、今後も季節に応じたおやつ作りなど入居者と一緒に食を楽しむ機会を持つ事も良いと思われる。取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を確認しており、飲み物に関しては、ご本人の飲み物を聞いて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアをスタッフで共有しており、毎食後には口腔内の清潔に努めています。また、個人の義歯に関し、週2回の洗浄(ポリドント)を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様ごとの排尿チェック表を利用し、定時誘導以外にも、その方のパターンを把握し、状況に応じて誘導と付き添いを行っている。	排泄チェック表を活用し定時誘導や、個々のパターンに応じて声掛け・誘導、付き添いが行われている。殆どの方がリハビリパンツを使用されているが、尿取りを併用しながら布パンツで過ごされる方もおられる。夜間も個々に応じて支援しており、テープ式オムツに変更される方もおられる。また、夜のみ使用される方のポータブルトイレはその都度廃棄し、臭気など残らないよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認を行うと共に、利用者様の状況に応じ、乳製品を取り入れたりしています。運動に関しては、その利用者様が出来る内容を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中ではありますが、ご利用者様の意向や状況をふまえ、入浴時間を柔軟に対応しています。	入居者の体調や希望を聞きながら日中ではあるが、週2回の入浴支援に努めている。脱衣所は広く特に冬場は温度管理に配慮し、寒いことから入浴を拒まれることが無いようにしている。拒否がある場合は時間を置いて再度声を掛けるなど、無理なく入ってもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日によって利用者様の入眠される時間が違う為その都度、利用者様の決定にて入眠を促したり、その日に眠くない時は一緒に話しながらテレビを見たりし、落ち着かれるまで一緒に過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬リストを綴じており、薬の服薬目的や副作用について各スタッフが理解できる様に工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭き等、利用者様自身での活動に対し対応しています。又、コミュニケーションの中から、ご利用者様の意向も取り入れながら、楽しみやレクリエーション等の気分転換の時間を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各利用者様の状態に応じて施設周囲を付き添い散歩を行ったり、ベランダでおやつを食べたりし、利用者様の家族の方に協力をして頂き外出、外泊等の気分転換への協力をして頂いています。	ホーム周辺の散歩やベランダで外気浴を兼ねたおやつの時間など継続して取り組んでいる。また初詣や阿蘇の物産館への外出には3名の入居者を2名の職員で支援している。中には「お買い物に行きたいな～！」と要望され、近くのストアで好みのお菓子を大量に購入され帰園された方もおられる。家族の協力として介護タクシーを利用して自宅への帰省や面会時に散歩をされるなど何よりも嬉しい時間となっている。	近々近隣の公園へ外出予定であり、入居者や職員も楽しみにされていることが窺えた。今後は外出の予定が決まれば家族へも現地集合で参加を呼びかけるなど一緒に楽しめるような働きかけに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は困難な方ばかりなので、施設にて管理しており、園外行事等の際にご利用者の買い物を選んで頂き、スタッフが買い物の対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により、家族に連絡出来るよう、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高いため圧迫感がなく、ベランダは南向きで開放感があります。近くには小学校もあり、元気な子供たちの声が聞こえる環境です。	入居者が食事やレクリエーションをはじめ日中の殆どを過ごすリビングホールにはテーブルやソファが入居者の状態に応じて配置されている。席も身体状況や相性などに応じて検討しており、ベランダを活用しながら入居者が寛げる場所を心掛けている。また、オープンな台所から聞こえる音や匂いも入居者にとってはメリハリのあるものになっている。リビングの壁には季節に応じた飾りつけや日中の活動写真などが掲示されている。	コロナ感染症への対応から家族の来訪時にゆっくりとホーム内の掲示物を見る機会は難しかったようである。今後は入居者の作品など家族や来訪者に掲示物の紹介を行うことで励みにもなると思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはソファや椅子を設置し、ベランダにはベンチを置いて好きな時に好きな場所を利用できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファー、タンス、写真など自宅にあった馴染みの物を自由に持ち込んで安心出来る環境の整備をして頂いている。	ベッドやクローゼット・洗面台が備わった居室はどの部屋も明るく、家族の協力によりソファやタンスをはじめ帽子や小物など自宅で使用されていた物が自由に持ち込まれている。中には物があると不安になる方には必要品を見極めスッキリとした居室となっている。衣替えは家族へ伝えながら職員も一緒に行っている。居室内は共用空間同様、掃除や換気の徹底、必要に応じた消毒が継続されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、通路、浴室等に手すりを設置し、すでにバリアフリーになっています。		